

埼玉県衛生研究所報

ANNUAL REPORT
OF
SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 21

1987

埼玉県衛生研究所

第21号 昭和62年

ま え が き

昭和62年度埼玉県衛生研究所の所報を世に送り出すことになりました。

所報は衛生研究所の一年間の努力の結晶であり、個人の存在の一面を表現しているものでもあります。

内容は主に埼玉県内で発生した保健に関する事象ですが、日本はもとより世界の保健に関連する事件、また個人の内面より沸きでた作品もあります。

その意味でユニークなものであり、誇りを持ってよいと思いますし、またその自覚が大切であると思われます。

これら作品の中の基礎となるものは、調査なり実験より生じたデータであるが、公衆衛生で扱うものは人に関連するものが多く、多様な問題点を含むことが多い。従ってその中に含まれる情報が普遍的であるかどうか心得ている必要があります。

データの中には多様な情報が含まれており、それをどう取り出し、どう表現するかはAUTHORにより異なり、従って同じデータであっても全く異なってみえる論文となることがあります。それがAUTHORのセンスであり、作品ということになると思います。

所報全体としても、個人としても外から評価されるわけで、データの中から情報を取り出し、図・表・文章に表現することは、調査なり実験と同じように重要であり、充分時間をかける必要があります。時間によって磨かれたものはやはり深いと思います。

人は何時までも生きることはできません。即ち寿命があります。同じように人から発生したものには寿命があると思われます

論文も例外ではなく、対象となる分野により異なりますが指数関数的に生命が減少するようです。20年経って読まれる論文は、公衆衛生の分野では10%位になり、何れ忘れられる時が来ます。

その意味でも、難しいけれど自己の表現である論文に心をこめたいと願っております。

昭和62年12月

埼玉県衛生研究所
所長 方波見 重兵衛

目 次

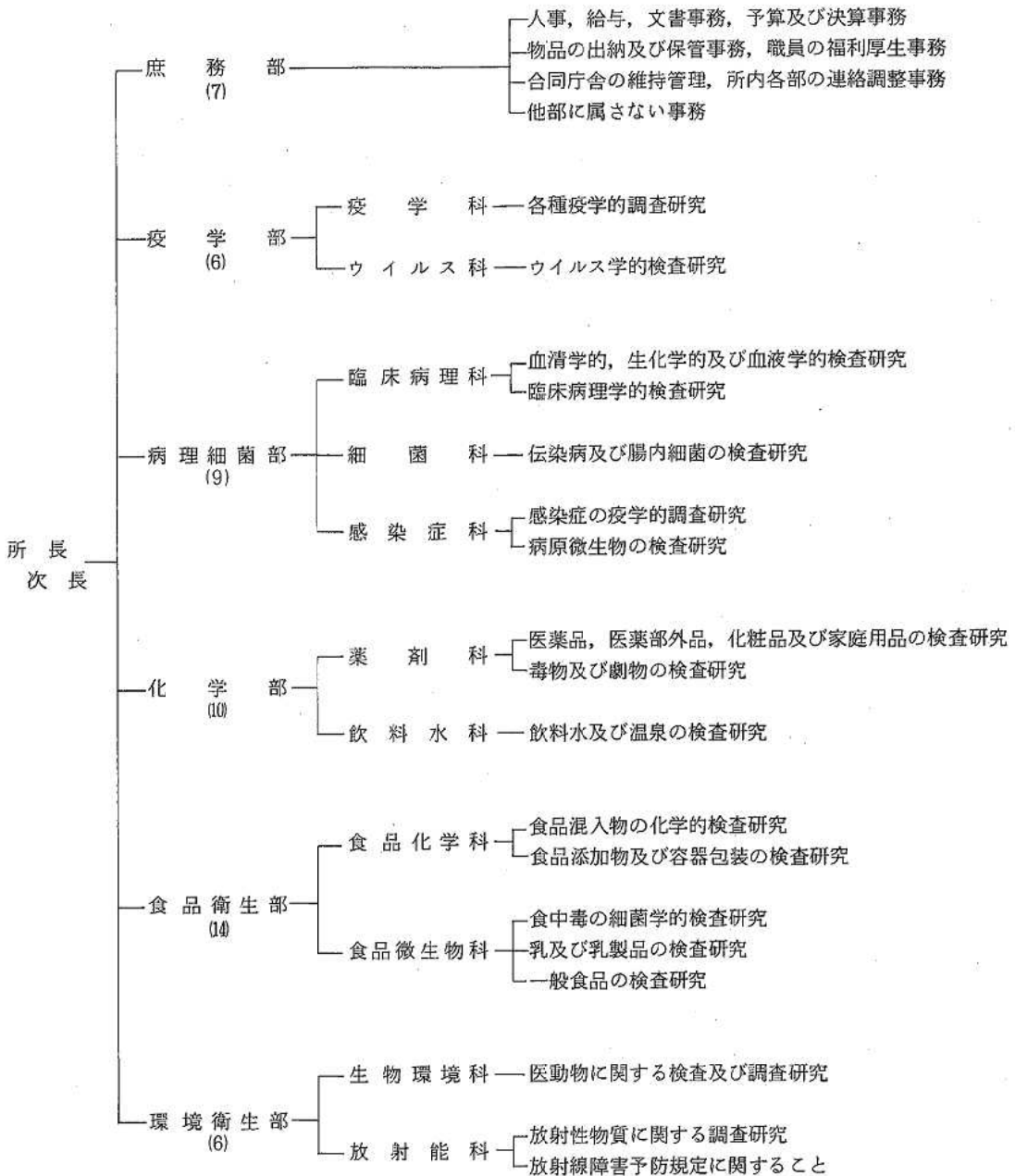
1	沿革	1
2	組織及び事務分掌	2
3	職員	3
	(1) 職員の配置状況	3
	(2) 職員名簿	4
4	業務報告	6
	(1) 疫学部	6
	(2) 病理細菌部	9
	(3) 化学部	13
	(4) 食品衛生部	14
	(5) 環境衛生部	18
5	研修業務	20
	(1) 保健所等職員の技術研修実施状況	20
	(2) 所内職員の研修実施状況	21
6	調査研究(論文)	
	ウイルス性胃腸炎の集団発生について	23
	トキソプラズマ感染症の血清学的考察	
	I. 一般健康者におけるトキソプラズマ抗体の保有状況	30
	ビタミンC含有医薬品の加速試験	34
	ガスクロマトグラフィーによる過酸化水素の定量法について	37
7	調査研究(ノート)	
	埼玉県における近年の赤痢菌について(1971~1986年)	43
	埼玉県内で分離されたヒト及び環境由来サルモネラの血清型と薬剤耐性(1986年)	54
	4-ニトロオルトフェニレンジアミンによる水道水中のセレンの簡易な吸光度定量法	60
	チアベンダゾールの防カビ性に関する一知見について	63
	高速液体クロマトグラフィーによる亜硝酸塩の定量法について	66
	豆腐および麺類の細菌汚染実態調査	69
8	資 料	
	埼玉県の腸管系病原菌検出状況(1986年)	73
	感染症情報管理事業に伴うレンサ球菌検査状況(昭和61年度)	76
	埼玉県内の水道の水質(昭和61年度)	79
	香料中のアフラトキシン汚染調査結果について	81
	衛生害虫同定検査の結果について	83
	ソ連原発事故に係る環境放射能調査	93
9	紹 介	
	歯科医師数の将来需給に関する研究	97
	Coxsackie, A 21 (C A 21) ウイルスの流行について	97
	乳幼児下痢患者からのアデノウイルス40型の分離	97
	Coxsackie A-21ウイルスによる急性上気道感染症の流行	97
	浦和市における28~32nm ウイルス性胃腸炎の臨床的疫学的特徴について	98
	井戸水に起因したウイルス性胃腸炎の集団発生について	98
	4月に発生したインフルエンザAH1NI型の流行	98
	埼玉県の独身寮で発生した風疹の集団発生	98
	結核菌の迅速・簡易識別法としての耐熱カタラーゼ試験の検討	99
	戸田・蕨保健所試験検査室における抗酸菌分離状況	99
	最近の溶血レンサ球菌分離状況	99

	ビタミンC含有医薬品の加速試験	99
	プール水中の塩化シアン及びトリハロメタンの基準設定の試み	100
	Determination of Total and Combined Chlorine in Water with the Pyridine-Pyrazolone Reagent	100
	水道水中のCNP及びX-52の調査	100
	4-ニトロオルトフェニレンジアミンを用いた吸光光度法による水中のセレンの定量	101
	ガスクロマトグラフィーによるニコチン酸アミドの定量法の検討	101
	高速液体クロマトグラフィーによる養殖魚中の水産用医薬品の一斉分析	101
	高速液体クロマトグラフィーによる豚肉、牛肉及び鶏肉中のスピラマイシンの定量	102
	蛍光基質免疫測定法 (Substrate-Labeled Fluorescent Immunoassay, SLFIA 法) による豚肉中のカナマイシンの定量	102
	高速液体クロマトグラフィーによるスピラマイシン及びその酸分解物ネオスピラマイシンの分析	102
	高速液体クロマトグラフィーによる畜産食品中のスピラマイシンの簡易定量法	103
	UV検出器と蛍光検出器を用いた高速液体クロマトグラフィーによる養殖魚中の ナリジクス酸、オキソリン酸及びピロミド酸の同時定量	103
	河川水中の発熱性物質と細菌数およびBODとの関連性	103
	鶏の臓器及び卵からのサルファキノキサリンの消失に関する動態	104
	高性能薄層クロマトグラフィーを用いた蛍光デンシトメトリーによる 鶏卵及び鶏肉中のピコザマイシンの定量	104
	液滴向流分配及び薄層クロマトグラフィーによるバージニアマイシンM ₁ の単離及びその抗菌活性	104
	高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉、豚肉中のバージニアマイシンの残留分析	104
	雨水及び温水中の発熱性物質と細菌数の検索	105
	食品におけるエルシニアの汚染状況調査 (鶏肉について)	105
	食肉等におけるYersiniaの汚染状況調査	105
	食鳥、食鳥処理場及び市販食鳥肉の食中毒細菌の汚染状況	105
	都市化地域における河川及び農業用水路の汚染についての衛生学的総合調査	106
	クロゴキブリの餌トラップへの反応	106
	水田におけるアキアカネ幼虫のシナハマダラカ幼虫に対する天敵としての役割に関する研究	
	III. 水田内における捕食率の推定	107
	水田におけるアキアカネ幼虫のシナハマダラカ幼虫に対する天敵としての役割に関する研究	
	2. 実験室内における捕食能力	107
	埼玉県におけるソ連原発事故に伴う放射調査	107
	埼玉県における放射能調査 (昭和60年度)	108
10	所内セミナー実施状況	109
11	著者名索引	110
12	投稿規定	112

1 沿革

年 月 日	概 要	備 考
昭和22年11月4日	衛生部の設置と同時に、警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした。	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し、食品、環境、衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年2月15日	大宮市吉敷町1丁目に庁舎を新築し、細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して、埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。	庁舎所在地 大宮市吉敷町1丁目124番地
	衛生研究所には、庶務課、病理細菌部（3科編成）、化学部（2科編成）、衛生獣医部（2科編成）及び生活科学部（2科編成）を設置した。	
昭和28年12月11日	開所式を行った。	
昭和32年12月5日	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年9月12日	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年5月1日	病理細菌部に3科、化学部に3科、疫学部2科及び環境衛生部に3科を設置し、1課4部（11科）制とした。	
昭和43年11月1日	公害研究部（2科）を設置し、1課5部（13課）制とした。	
昭和44年5月1日	庶務課を庶務部と改正し、6部（13科）制とした。	
昭和45年10月1日	公害センター設置により公害研究部を廃止し、5部（11科）制とした。	
昭和47年4月1日	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保639番地1
昭和47年5月16日	大宮庁舎から移転し、業務を開始した。	
昭和47年5月26日	開所式を行った。	
昭和48年7月1日	食品衛生部（2科）を設置し、化学部を2科とし、6部（12科）制とした。	
昭和49年5月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年5月1日	組織改正に伴い、従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年4月1日	環境衛生部に廃棄物科を設置し、6部（13科）制とした。	
昭和54年3月8日	検査棟（放射能研究室）を新築増設した。	
昭和57年4月1日	組織改正により、環境衛生部衛生工学科、廃棄物科を公害センターに移管し、6部（11科）制とした。	
昭和60年4月1日	組織改正により、感染症科を疫学部から病理細菌部へ、ウイルス科を病理細菌部から疫学部へ移管した。	

2 組織及び事務分掌



3 職員

(1) 職員の配置状況

(昭和62年4月1日現在)

職別 部別	事務吏員			技術吏員								その他の吏員				合計					
	部長	主任	主事	計	所長	次長	部長	専門調査員	科長	主任研究員	主任	技師	計	主任(技)	主任(技能)	技師	技師(技能)	計	科別	部別	
所長					1								1								1
次長						1							1								1
庶務部	部長			1																	1
	事務吏員	1	4	4										2				2			6
疫学部	部長						1						1								1
	疫学科								1			1	2								2
	ウイルス科							1	(1)		1	2	2		1			1			3
病理細菌部	部長						1						1								1
	臨床病理科										2	2									2
	細菌科								1		1	1	3		1			1			4
	感染症科							1		1		2									2
化学部	部長						(1)						(1)								(1)
	薬剤科								1		2	2	5								5
	飲料水科								1		3		4								4
食品衛生部	部長						1						1								1
	食品化学科								1		4	1	6		1			1			7
	食品微生物科								1		4		5			1	1				6
環境衛生部	部長						1						1								1
	生活環境科								1		2		3								3
	放射能科								1		1		2								2
現在員合計		1	4		5	1	1	4	1	9		21	5	42	2	3		1	6		53

() 兼務

(2) 職員名簿

(昭和62年4月1日現在)

部 名	科 名	職 名	氏 名	専 務 分 担	備 考
		所 長 次 長 専門調査員	方波見 重兵衛 森 本 功 村 尾 美代子	所内統括 所内補佐 化学部長兼務 ウイルス科長兼務	医師 薬剤師
庶 務 部		部 長 主 任(事) 主 任(事) 主 任(事) 主 任(技) 主 任(技)	遠 藤 隆 二 近 藤 麻 枝 田 口 春 江 大 熊 清 志 金久保 富治夫 松 本 茂 男 和 田 義 信	部内統括, 人事, 財産管理 経理, 物品管理 給与, 研修, 経理 経理, 文書, 福利厚生 予算, 物品, 庁舎管理 庁用車運転管理 庁舎管理, 動物飼育管理	
疫 学 科	部 長		吉 岡 勝 平	部内統括	
	疫 学 科	科 長 技 師	田 中 章 男 林 英 登 樹	科内統括, 疫学的調査研究 疫学的調査研究	臨床検査技師
	ウイルス科	科 長(兼) 主 任(技) 主 任(技能)	村 尾 美代子 戸 谷 和 男 酒 井 正 子	科内統括, ウイルス学的検査研究 ウイルス学的検査研究 試験検査補助	薬剤師 薬剤師
病 理 細 菌 部		部 長	奥 山 雄 介	部内統括, 細菌学的検査 血清学的調査研究	獣医師
	臨床病理科	主 任(技) 主 任(技)	河 橋 幸 恵 井 上 豊	生化学的検査, 血清学的検査研究 生化学的検査, 血清学的検査研究	薬剤師 薬剤師
	細 菌 科	科 長 主 任(技) 技 師 主 任(技能)	大 関 瑤 子 山 口 正 則 砂 押 克 彦 島 田 サ ト	科内統括, 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 試験検査補助	獣医師 臨床検査技師
	感染症科	科 長 主 任(技)	首 藤 栄 治 大 島 まり子	科内統括, 細菌学的, 血清学的調査研究 細菌学的, 血清学的調査研究	獣医師 臨床検査技師
化 学 部		部 長(兼)	森 本 功	部内統括, 医薬品等検査研究 水質検査研究	
	薬 剤 科	科 長 主 任(技) 主 任(技) 技 師 技 師	石 野 正 藏 野 坂 富 雄 渡 辺 富 士 雄 只 木 晋 一 高 橋 邦 彦	科内統括, 医薬品等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師
	飲 料 水 科	科 長 主 任(技)	北 川 豊 明 広 瀬 義 文	科内統括, 水質検査研究 水質検査研究	薬剤師
		主 任(技) 主 任(技)	鈴 木 章 竹 澤 富 士 雄	水質検査研究 水質検査研究	薬剤師

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
食品衛生部	食品化学科	部 長	能 勢 憲 英	部内統括, 食品等化学的調査研究	薬剤師
		科 長	星 野 庸 二	科内統括, 食品化学検査研究	薬剤師 薬剤師 薬剤師
		主 任(技)	菊 地 好 則	食品化学検査研究	
		主 任(技)	堀 江 正 一	食品化学検査研究	
		主 任(技)	飯 島 正 雄	食品化学検査研究	
		主 任(技)	齊 藤 貢 一	食品化学検査研究	
技 師	神 戸 正 美	食品化学検査研究			
主 任(技能)	土 屋 みつ子	試験検査補助			
食品衛生部	食 品 微 生 物 科	科 長	德 丸 雅 一	科内統括, 食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任(技)	砂 川 誠	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任(技)	正 木 宏 幸	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任(技)	板 屋 民 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任(技)	青 木 敦 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		技師(技能)	川 口 千鶴子	試験検査補助	
環境衛生部	生物環境科	部 長	宮 沢 正 治	部内統括	臨床検査技師
		科 長	高 岡 正 敏	科内統括, 寄生虫原虫等検査研究	獣医師
		主 任(技)	武 井 伸 一	寄生虫原虫等検査研究	
主 任(技)	浦 辺 研 一	衛生害虫等検査研究			
環境衛生部	放 射 能 科	科 長	中 沢 清 明	科内統括, 放射能測定, 分析調査研究	放射能測定, 分析調査研究
		主 任(技)	川 名 孝 雄	放射能測定, 分析調査研究	

11 著者名索引

太字は筆頭者, * は当
所職員以外の者である。

A		N	
会田 忠次郎*	107 107	中村 雅隆	106
青木 敦子	69 105 105 105	中沢 清明	93 107 108
F		中沢 裕之	101 102 102 102 103 103 104 104 104
藤崎 清道*	97	能勢 憲英	37 63 66 69 81 101 101 102 102 102 103 103 104 104 104 104 105
藤田 昌彦*	102 102 102 104 104	野坂 富雄	34 99
H		O	
服部 昭二*	83 106 108	大島 テル*	99
広瀬 義文	79 100 100	大島 まり子	76 99 99 99
堀江 正一	81 101 102 102 102 103 103 104	大関 瑤子	43 54 73 98
星野 庸二	81 101 101 102 102 102 103 103 104	岡田 正次郎*	98 98
本田 靖*	97	興津 潤子*	99
I		興津 知明*	100 100
飯島 正雄	81 101	奥山 雄介	30 43 54 73 76 99 99 99
池本 孝哉*	107 107	S	
石野 正蔵	34 99	斉藤 貢一	81 102 103 104 104 104
板屋 民子	69 105 105 105	實方 剛*	97
岩崎 久夫	101 102 102 103 103 104 104 105 105 106	志田 保夫*	102 102 104
K		謝村 錦芳*	34 99
金子 功*	97	首藤 栄治	43 54 73
金森 雅夫*	97	砂押 克彦	99
方波見重兵衛	97	砂川 誠	63 69 105 105 105
川名 孝雄	93 107 108	鈴木 章	79
河橋 幸恵	30	鈴木 敏正*	79 101
菅野 三郎*	100 100	T	
菊池 好則	37 66 81 101	高橋 邦彦	34 99
M		高岡 正敏	83
正木 宏幸	69 103 105 105 105 105	武井 伸一	83 106 107
牧野 サチ子*	97 97	竹澤 富士雄	60 79 100 101
松永 泰子*	97 97 97	只木 晋一	34 99
松野 重夫*	97	田中 章男	37 63 66 81 101
松本 喜市*	34 99	土屋 みつ子	81
宮沢 正治	83 93 107	手嶋 力男*	98
百瀬 隆人*	97 97	徳丸 雅一	23 69 103 105 105 105 106
森本 功	34 79 99 101	戸谷 和男	98 98
村尾 美代子	23 97 97 97 98 98 98 98		
村田 元秀*	103		

U

梅沢 芳史* 34 99

宇佐美 博幸* 103

浦辺 研一 83 106 106 107 107

W

渡辺 富士雄 34 99

Y

山口 正則 43 54 73

山崎 修道 97

矢武 真行* 34 99

吉田 寛* 104

12 埼玉県衛生研究所報投稿規程 (昭和62年5月改正)

1 所報は、埼玉県衛生研究所で行った試験検査業務、調査研究、資料等を掲載する。投稿は、本所職員に限る。ただし、本所職員以外の共著者がある場合には、その所属を*印を用いて欄外に入れる。

例 * 中央保健所

2 衛生研究所報の内容

- 1) 沿革
- 2) 組織及び事務分掌
- 3) 職員
- 4) 業務報告
- 5) 総説 各種論文に基づく総説。
- 6) 調査研究 論文、ノート、短報。印刷物として未発表であり、新知見を含むものとする。
- 7) 資料 調査資料、統計。
- 8) 紹介 過去1年間の他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。

9) 著者名索引

10) 投稿規定

3 調査研究の形式

形式は、序論(緒言、はじめに)、方法(実験方法、調査方法、材料及び方法)、結果(成績、結果及び考察)、要約(まとめ)、謝辞、文献の順とする。

4 紹介の形式

他誌発表のものは次の例による。

例 題名

氏名

日本公衛誌(1974): 21(10) 123-129.

要旨(400字以内)

学会発表(口頭)のものは次の例による。

例 題名

氏名

要旨(800字以内)

日本薬学会第105年会(1984): 金沢

5 原稿の書き方

- 1) 原稿は、所定の原稿用紙A4判(20×20字)に横書きで記載する。枚数は原則として、総説40枚、論文30枚、ノート15枚、短報8枚、資料10枚とする。ただし、規定枚数は、表、図及び写真を含む。
- 2) 調査研究及び資料の原稿には表題と著者名をつける。見出しは、原稿の真中に、上下1行をあけて書く。各見出し後の細部の各項目には、次の順序に数字をつける。1, 2, ……; 1), 2) ……; (1), (2) ……。
- 3) 数字はすべてアラビア数字を用い、文章は原則として現代かなづかいで、当用漢字を使用する。用字用語等については、原則として埼玉県発行「文書事

務の手引」による。

4) 文章中の句読点(、。)、かっこ()は1字に数え、—(ハイフン)は区画の中に明瞭に記入する。

5) イタリック体となる字の下には、———をつける。(例: *E. coli*)

6) 数量の単位は、m, cm, mm, μ m, nm, L, ml, kg, g, mg, ng, pg などを用いる。

7) 表、図の原稿及び写真は、別に、専用原稿用紙、または同型の紙に貼りつけ、本文の後につづり合わせる。表、図及び写真を入れる位置は、本文中の右欄外に矢印(←表1)で指定する。表及び図に関する注釈は、本文中には入れない。

例: 表2 分離菌株の薬剤耐性

(表の上の中央に記載)

図3 果実中の残留農薬

(図の下の中央に記載)

Table 及びFig.などの英字を用いる場合は、表及び図全体について英字を用い、英文タイプ、またはレタリングを使用する。

8) 図は、A4判以下の大きさの平滑な白紙または青色グラフ用紙に黒インキで書く。図の印刷は、原則的には著者のものを用いるが、図中の文字につき活字の使用を希望することもできる。また、図のトレースを希望することもできる。図の大きさに希望があるときは、大体の大きさを指定する。

9) 引用文献は、山本¹⁾、赤痢菌²⁻⁵⁾のごとく1区画を与えて右肩に示し、最後に一括して列記する。

10) 文献の記載は次の例による。

例:

1) 高畠 英伍(1981): 畜水産用薬物の現状と問題点, 衛生化学, 27, 127-143.

2) Ames, B. N. (1979): Identifying environmental chemicals causing mutations and cancer, Science, 204, 587-593.

3) 善養寺 浩, 寺山 武(1978): 微生物検査必携 細菌真菌検査 第2版, 264-276, 日本公衆衛生協会(東京)。

11) 脚注は、*印を用いて欄外に記入する。

6 原稿の提出及びその取扱いについて

1) 原稿は、所属部長を経て編集委員に提出する。提出された原稿については、編集委員会で検討を加える。

2) 編集委員会は、所長、次長及び各部から選出された編集委員で構成し、次長を委員長とする。

3) 校正時の原稿の改変は認めない。どうしても必要なものは正誤表による。

4) 初校及び二校は著者、三校（以後）は編集委員が行う。

所報編集委員

（アルファベット順）

遠藤 隆 二
石野 正 蔵
方波見 重兵衛
森本 功*
村尾 美代子
中沢 清 明
能勢 憲 英
奥山 雄 介
（*編集委員長）

埼玉県衛生研究所報

第 21 号

昭和63年 3月印刷

昭和63年 3月発行

編集及び発行所 埼玉県衛生研究所

浦和市上大久保東 639-1 〒338

電話 0488-53-6121

印刷所 株式会社 太陽美術

浦和市常盤 1-3-9

電話 0488-24-3261
